

共通教育通信

KYOTO UNIVERSITY

2008 Autumn

編集部より

contents

- 巻頭言 人とコミュニケーションを！
- 授業紹介 哲学基礎論への招待
文系向の基礎化学
アラビア語
スポーツ実習(フィットネス)
- 研究施設紹介 再生医科学研究所
- お知らせ 国際フォーラム報告
通信アンケート結果報告
サークル紹介
KULASIS 全学展開
指定喫煙場所
自転車をご利用の方へのお願い
- コラム やはりお風呂は好きですね？



表紙を飾るスナップ写真大募集!!

『共通教育通信』では、みなさんのキャンパス生活シーンの写真を用いて毎号の表紙をデザインしています。日常の何気ない風景、「面白い！」と感じたもの、友達とのスナップなど題材は問いません。みなさんがデジタルカメラや携帯電話で撮影した写真を下記のアドレスまでお送りください。

■写真には学部、回生、氏名、コメントを添えてください。

■著作権や肖像権の問題などにより掲載できない場合があります。著作権の確認、人物を撮影する場合は掲載の承諾を得てからお送りください。

送り先:

京都大学共通教育推進課

e-mail : 730tusin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

『共通教育通信』についてのご意見・ご感想も、こちらのアドレスにお送りください。



今号の表紙写真紹介

1. スポーツ実習の授業の様子
2. 平成19年の11月祭でのスナップ
3. 吉田南構内の“秋色”スナップ
4. 吉田南構内の“秋色”スナップ
5. 吉田南構内の“秋色”スナップ
6. 吉田南構内の“秋色”スナップ

「学生による授業紹介」原稿募集!!

みなさんが受講されている授業を紹介してください。授業での貴重な経験・驚いたこと、ユニークな先生の紹介など500字程度(科目名、担当教員名も含めて)でお願いします。

■学部、回生、氏名を本文とは別に明記してください。ただし、掲載時には学部、回生のみを掲載し、氏名は掲載しません。

■掲載に際して、編集部にて表現の一部を削除・訂正する場合があります。

送り先:

京都大学共通教育推進課

e-mail : 730tusin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Vol.11

人とコミュニケーションを！

理学研究科長

加藤 重樹

ここ20年余りの情報技術、コンピュータの進歩は、大学における教育・研究現場の様子を大きく変えてきた。講義室では、パソコンに接続されたプロジェクターが使われ、パワー・ポイントなどのソフトウェアで作られたきれいな図表や写真などを用いて授業が行われている。研究の現場では、実験データの処理や解析、図表の作成はもとより、論文もコンピュータなしでは書けなくなっている。近年、理科系ではインターネットにより閲覧される電子ジャーナルが主流となり、冊子体が発行されていない学術誌も増えてきている。いずれ、論文はディスプレイ上で読む時代が訪れることになるだろう。このように、情報技術、コンピュータの導入により、教育に用いる手段の幅が広がり、よく整理され、視覚にうったえる講義が行われることにより、受講者の理解が深まることが期待される。しかし、理学部での学生諸君を対象としたアンケート調査では、プロジェクターを使った講義の評判は必ずしも良くなく、従来の黒板を使った講義の方が授業の内容を理解する上で勝っているとの結果が出た。時には誤りを訂正しながら板書をする講義のスピードが、学生諸君が授業内容を理解するのに適しており、デフォルメされた板書の図の方が記憶に残りやすく、理解を深める助けになっっているようだ。フアカレター・デベロップメントの場では情報機器を用いたエンターテインメント化した授業が推奨されることも多々あるが、少なくとも情報機器を使用する利点と弱点をよく考えて、講義の準備をすることが必要であることを上のアンケート調査は示唆している。

の高速化、大容量化はコンピュータ・シミュレーションという新しい手段をもたらした。今や超高速スーパーコンピュータの開発とそこで使用するソフトウェアの作成は国家的プロジェクトという研究分野もこの国家プロジェクトの一翼を担おうとしている。量子化学と聞いても、ピンとこない人が多いかも知れないが、それは今から約80年前に始まった化学の研究分野の一つである。1926年、ドイツの物理学者シュレディンガーがミクロの世界での物質の運動を記述する波動方程式を提案し、その翌年、ハイトラールとロンドンという二人の物理学者により最も簡単な分子である水素分子の化学結合を説明するために波動方程式が用いられたのがその出発点となっっている。その後、複雑な原子や分子が関与する現象を取り扱う理論的なモデルが次々と開発され、現在では数千の原子からなるタンパク質によって引き起こされる酵素反応なども研究の対象となっている。すなわち、量子力学に立脚して化学現象を理解し、実験結果を再現することを目的とする学問である。本学は、1981年にノーベル化学賞を受賞した福井謙一先生を始め、多くの著名な量子化学研究者を輩出し、現在でも我が国の研究拠点の一つとして活発な活動が続けられている。

とができるはずである。しかし、原子・分子の波動方程式は、特別な場合を除いて、多体間の相互作用を含むため余りにも複雑で、厳密に解くことができず、様々な近似を導入することにより理論的なモデルを作り、化学現象をシミュレートすることになる。1970年代の後半からは、コンピュータを用いて理論的なモデルを数値的に解くことができるようになり、ここ30年余りのコンピュータの進歩により、量子化学的手法を用いて複雑な化学反応なども取り扱うことも可能となっけてきている。場合によっては、実験よりも高い精度で物理量を求めることもできるし、実験をすることが困難な条件下での分子の挙動を調べることもできる。今後、このような量子化学のシミュレーション手法を用いた研究が、物質科学の分野で益々重要な役割を果たし、化学現象が理論的な言葉を用いて議論される可能性が広がってくると思われる。

研究者が導き出した理論や数値計算上の工夫がプログラム化されたものであり、学問発展の現時点での到達点である。本来、研究を進めるためには、これらの理論、方法を完全に理解することが必要不可欠である。特に、原子・分子の量子化学理論は、完成されたものではなく、新しい理論の方法が次々と開発、提案されている。これまでの歴史を見ても、画期的な理論の出現により、飛躍的な発展がもたらされてきた。この研究手段のブラックボックス化は、何も、大規模なコンピュータ・プログラムを使う研究分野だけではなく、多くの研究分野で進んでいる。私の関係する化学においても、実験で多くの測定機器が使われ、その大部分は測定に用いられる原理は知らなくてもボタン操作だけで結果が得られるようになってきている。このようなブラックボックス化した機器に囲まれて研究を行う環境が、学生諸君の研究者としての成長にプラスに働いているかどうか、真剣に考えてみる必要があると思っっている。

れることがしばしばある。これは、研究の分野が細分化され、その細分化された分野の中に閉じこもり、他の分野の人とコミュニケーションをとることが少なくなっけてきていることによっっているからである。また、最近、学生諸君の間で研究についての議論を戦わせたることが少なくなっけてきており、他の人とコミュニケーションをとることが苦手な学生が増えていることもその一因かも知れない。

理論的な研究分野である量子化学であっても、対象とするのは現実の化学現象であり、実験研究と離れては存在し得ない。先に述べた福井謙一先生のノーベル賞受賞に繋がったフロンティア軌道理論も、同時に受賞したアメリカのホフマン博士のウッドワード・ホフマン則も、膨大な数の化学反応の実験結果を統一的に説明するために提案された理論であり、研究の背後には実験有機化学との緊密なコミュニケーションがあったことが知られている。学生時代、恩師であった福井先生の化学現象についての豊富な知識に畏敬の念を持ったことは、今でも思い出される。

自然科学は、従来の数学、物理、化学、生物、地学の分野の枠を越えて発展している。量子化学もその典型と言っことができる。化学についての知識は当然であるが、分子の波動方程式を取り扱うためには、微積分や線形代数は必須であり、量子力学や統計力学の知識なしには論文を読むこともできない。最近、研究の興味、対象が生体内での分子過程に広がっけており、それを行うためにはミクロな生物学の基礎知識も必要となる。当然、これら全てについての専門家になることは不可能であり、できることはそれぞれの分野の基礎的な知識を身につけ、それ以上のことは各分野の専門家に教える請うことである。従って、他の分野の人とコミュニケーションすることができる力を付けることが鍵になる。幸い本学には多くの学部、研究科があり、各分野の教員や学生がひしめき合っけて暮らしている。特に、1・2回生の頃は、自分と異なる分野の学生が周りに多くおり、他の学問分野の人とコミュニケーションをとる訓練をする場としても最適である。私の経験でも、1・2回生の時は、最も自由に使える時間がある時であり、学生諸君には、専門に繋がる基礎的な勉強をしつかりとし、更に、専門と異なる分野にも目を向けて、有意義な時間を過っけて欲しいと思っっている。

コンピュータ・シミュレーションは、言うまでもなく、理論的なモデルに立脚している。先に述べたように原子・分子の問題は、厳密に解くことができず、様々な近似を導入することににより導かれたモデルを用いて数値計算が行われる。従って、シミュレーションの結果の妥当性は、用いられたモデルがどの程度現実を反映しているかによっけて決まる。しかし、最近、シミュレーションに用いられるモデルが精巧になったこともあり、得られた結果を絶対視し、現実の実験による結果と対比することなく議論さ

ここまですべて、最近、学生諸君と接して感じたことを思いつづきま書いできた。確かに、ここ20年、30年の自然科学各分野における研究の進歩はめざましく、私が大学院生であったころと比べて、現在では研究者として自立するために必要な知識や情報の量が大幅に増えている。そのため研究のブラックボックス化が進むのは仕方がないのかもしれない。しかし、一見膨大に見える知識、情報もその根幹となっけていることは意外に少なく、それらを十分理解していれば、後は容易に理解することができると。従って、カタログ的に知識を増やすのではなく、本当に基礎となっけていることをしっかりと身につけることが大切である。また、現在の

加藤 重樹 (かとう しげき)
理学研究科 教授
1949年生まれ
専門分野：量子化学、化学反応理論
趣味：映画鑑賞





哲学基礎論への招待

哲学ってどんなこと？

戸田 剛文

こんにちは
 「哲学」という言葉自体は、京都大学に入学されたみなさんなら聞いたことがあるでしょう。でも日本では、大学にならないと哲学という授業を受けることはないと思いますので、哲学っていったいどんなものなのかということはなかなかイメージのつかみにくいことだと思えます。経済学や美学、言語学という科目ならば、まだ科目名でなんとなくどういふものかという自分なりのイメージは作れるかもしれません。「経済」についてのものだろうとか、「美」についてのものだろうとか、「言語」についてのものだろうとかいうふうには思いますが、それがあたっているかどうかはもちろん別の問題ですが。しかし、哲学という科目はそういった漠然としたイメージすらつかみにくいのではないのでしょうか。「哲」って…。実際のところ、僕だって哲学というのはこういうものですよ、とはひとくちで説明できません。というのも、哲学は、ありとあらゆるものをその考察対象にできるので、人によって扱っているものはかなり違うからです。だから、ときに哲学は、「…の哲学」というふうに、「…」にいろいろな言葉（科学とか、心理学とか、道徳とか、心とか、知識などいろいろです）を入れて、そのテーマを示すことが多いのです。ですから、ここでは、あくまでも僕がどういったことを授業で扱っているのか、またどういったことに関心があるのかというかなり個人的なことに即して、哲学および哲学基礎論についてご紹介したいと思います。

【知識】について

昨年度と今年度は、哲学の中で特に「認識論」と呼ばれる分野を哲学基礎論では



講義しています。認識論とは、知識を素材にしてあれやこれやと考えることです。知識とは何かとか、僕たちは知識を持つことができるのか、そして知識を持つとしたら、どういう場合なのかを考えたります。こう書くと、「え、僕たちはたくさんいろんなことを知っているじゃないか！何言ってるんだ、今さら！」と思われるかもしれませんが、でも、ちょっと考えてみると、僕たちが当たり前だと思っていたものが、当たり前でなくなることがあるのです。むしろ、僕たちが当たり前だと思っていたことの多くのことは、実際にはそれほど当たり前なことではないかもしれません。「知識」というのもそのようなもののひとつなのです。

みなさんも名前くらいは聞いたことがあると思いますが、古代ギリシャの大哲学者ソクラテスは、僕たちが何かを知っているということがどれほどやっかいなのかを示してくれています。いろいろと知っていると思つたことが実はたんなる思い込みだったということが、彼はいろいろな形で示しています。その結果、彼が知っているのは、何も知らないこと、つまり「無知の知」だけだというわけです。こういった知識についての問題を重要なものだと考えたのは何も西洋の哲学者ばかりではありません。中国の孔子もまた、『論語』で、何を知っているかということを知りなさいと弟子に諭しています。人間

は、自分が知っているとか、自分が正しいと思ひ込んでおるときほど、ときにとんでもないことをしでかすのです。知っているということがいかに大変なものを、わかってもらって、また、それを自分の行動に反映させてもらえればと思います。

知覚と世界

りんごひとつをみてみる…

大きなテーマは、先ほど書いたように、知識についてなのですが、僕たちは世界の情報の多くを、知覚を通して獲得します。ですから、知覚というものをいろいろな角度から調べるのも、大切な課題のひとつです。

僕たちは、これまでの科学の発展のおかげで、どのようにして世界を知覚するのかについてたくさんを知っている（知る）ってことは難しいとさつき書きましたが、とりあえずこの言葉を使っておきます）ことができます。目の前にリンゴをひとつおいてみましょう。そして、このリンゴを目で見た場合についてちょっとだけ考えてみましょう。



僕たちの目の前にあるリンゴは、小さな原子からできていて、そこに光があたり、反射した光が僕たちの目を通して網膜に到達します。そこで、視神経を通り、脳にその情報が到着し（そこでもいくつ

かの段階を経た後）、僕たちはリンゴを見るわけです。僕たちが見る色つきのリンゴは、こういった過程の結果見えるのであって、原子自体が赤いわけでもありませんよね。じゃあ、たとえば、そのリンゴの色ってどこにあるのでしょうか？ 脳にあるのでしょうか？ 頭の上のところをカパッと外して、脳をのぞいてみたとしても、リンゴの像があるわけではないですよね。

他にも不思議なことはありません。「目の前のリンゴ」とさつき書きましたが、どうして僕たちはそれがリンゴだかわかったのでしょうか？「このリンゴを見なさい」と誰かが言ったからでしょうか？ もちろんそういった場合もあるでしょう。でも、そうじゃなくても、もしリンゴのことをある程度知っている（また使ってしまったが）ならば、たんに「これを見てください」と言われた場合でもリンゴだってわかるでしょう。でも、たとえば、今までに「これがリンゴですよ」と教えられたことがあるとしても、今見ているリンゴは、そのリンゴとは形もちょっと違っていて、色もちょっと違うかも知れません。すべてがまったくおんなじリンゴの方が珍しいでしょう。でも僕たちはリンゴだつてわかるわけですよ。それはなぜでしょう？

目の前のリンゴを見るという単純な出来事ひとつをとっても、いろんな問題があるわけです。時には、物理学や心理学や生理学などの科学が問題を提示してくれることもあります。また、そういったいろんな科学が問題を考えるヒントを与えてくれることもあります。問題もいたるところにあれば、それを考える手がかりもいたるところにある。それが哲学なのです。

答えがあるかどうかよりも、問う続けることが大切

哲学の問題の多くは、昔からあるものも多く、いろんな哲学者がいろんな解答を試みてきたものです。入試問題などなら、はじめから答えがあるのが当然ですが、みなさんは今まではそういった答えがある問題を解く勉強をしてきたわけですから、でも、答えがあるということは、もう誰かが答えを出しているということであり、それは解決済みの問題なのです。答えがあるかどうかかわからない、しかもずっと昔から考えられてきた問題を、使える手がかりを総動員して考え続ける、ここに哲学（だけじゃないですけど）の面白さがあります。特に、わりと当たり前だと思つていたことが、実はそうではないということを経験してきてくれば、それから、もう知っているということをも含めてもう一度疑い直し、いろんな角度から分析しなければなりません。真面目に取り組めば、分析力といった思考力も身につきますし、ちょっとでも思い込みを避けようとすることで、謙虚な姿勢も身につくかもしれませんよ。



戸田 剛文 (とだ たけふみ)
 大学院人間・環境学研究所 准教授
 1973年 11月 16日 奈良市生まれ
 専門分野：哲学
 趣味：陶磁器鑑賞と収集

文系の学生さんのための全学共通科目として、本年度より「文系向の基礎化学」(B群・主として1回生向け)をスタートしました。長年化学の基礎教育に携わってきて、京大だからこそ抱える一般教育カリキュラムの問題点と難しさをずっと認識していたのですが、この上ない良い機会をもちょうと紹介してみようと思います。

実は、この授業の前身として従来実施していた「化学概論」の履修者数が減少し、内容の改善を指摘されていました。そこで、私が考えたコンセプトは次の3つです。

1. 数式もきちんと使いながら、授業の内容を基礎的かつ高度なものにする。
2. 学生さんに積極的に授業に参加してもらおう。
3. 環境やエネルギーの問題に注目し、みんなで考えてみる。

さて、蓋を開けてみると予想以上に多くの学生さんが授業に来てくれました。さらさらした眼で聴いてくれて、少し恥ずかしそうではありますが、立派なプレゼンをしてくれました。さすが京大の新生。さちんとした環境に置かれると素晴らしい力を発揮します。とにかく最初の課題は、何でもいいから関心のある化学物質を1つ選んで調べてみることに。化学を学ぶのに怠慢は許されませんが、嬉しいことに多くの方が本やインターネットで探索し、立派なレポートを作ってくれました。そこで目に付いたのが、CO₂、硫化水素、メタミドホス。「化学物質」にはマイナスの

文系向の基礎化学

馬場 正昭



イメージが付きまといま。しかし、よく調べてみるとそれぞれの物質がある特定の用途に対してとても重要であることがわかります。CO₂は地球温暖化の原因とされ、今一

番注目されています。数人の学生さんが詳しく調べ、プレゼンしてくれました。ショートケーキを買おうと、よくドライアイスをつけてくれます。「お帰りの時間はどれくらいですか?」「1時間くらいです。」で、たぶん10gくらい。これがCO₂です。家に着く頃にはすべて気化して炭酸ガスになり、その分空气中に放出してしまったこととなります。炭酸ガスは空気よりも重いので地表に溜まり、太陽光線に含まれる赤外線を吸収して温度が上がります。その結果我々が生活している空間の温度が上がります、これが地球温暖化のメカニズムだと考えられています。しかし、炭酸ガス自体は我々、いや植物にはなくてはならないものです。

原始恐竜時代の大気には炭酸ガスが多く含まれ、光合成でエネルギーと酸素を発生する被子植物が繁栄しました。やがて大気中の酸素濃度が高くなると、母親の胎内で子を育てる哺乳類が生きられるようになります。もちろん、今でも植物はCO₂と太陽光で生きています。悪玉のように言われているCO₂は実は生命にはなくてはならないものなのです。しかし、

人類が化石燃料を燃やしてエネルギーを作り、それを基に生産活動を行い、過剰に炭酸ガスを発生させてしまったことで、地球のバランスが崩れていく。これは真剣に考えなければならぬ問題でしょう。

1997年、宝ヶ池の国際会議場で開かれた地球温暖化防止京都会議で「京都議定書」が作られ、世界の人々に環境保護の大切さを訴えました。京都から、さらにはもちろん京都大学から、このような地球温暖化を防ごうというメッセージをもっと発信していきたいのです。だから、社会や人間を科学する文系の方々、将来日本のリーダーとなるべき京大生の方々に、化学の基礎的な知識を学んでもらって、地球のことを考えてもらって。ちょっとたいそうですけど、そう思って毎週授業をしています。水曜日の5限に設定したこともあって、多くの方が受講してくれています。最近では、どんなにいい授業でもレポートや試験の負担で敬遠する学生さんが多いようですが、自らのために自らのアイデアで作るレポートは楽しく面白くて、読ませてもらう側もわくわくします。私が理想としているのは、別にすぐ役に立つわけでは



ないけど、興味が湧いて面白くて、授業に行くのが楽しみだなと感じてもらえる全学共通科目です。かつて私自身もある授業を聴いて、将来の方向が変わりました。たかが大学の授業と言う人もいらつしやいますが、それで人生が変わったという人も少なからずいらつしやいます。それからもうひとつ、科学の力が大きいこの時代に、「文系だから知らない」ではすまされない。それも切実に感じています。理系の学生さんが、倫理や哲学、法律を勉強しないといけないのと同じです。まあとにかく、文系だけと化学の基礎を学んでみたいという方、是非一度教室に来てみてください。



馬場 正昭 (ばば まさあき)
理学研究科 化学専攻 准教授
福岡県生まれ
専攻: 物理化学、レーザー分子分光。
趣味: サッカー、テニス。吉田のテニスコートか農学部グラウンドによくいます。

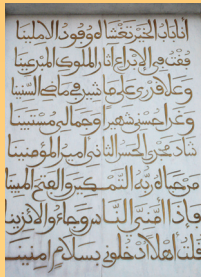


岡 真理

全学共通科目の外国語に「アラビア語」があること、ご存知ですか？毎年、四〇人前後の学生さんがアラビア語（初級）を選択します。なぜ、アラビア語……？いちばん多い理由は、「あの文字を読めるようになりたい！」です。

新学期、初級の第一回目の授業。さっそく文字と発音を習います。毎年、誰かが質問します。「先生、一年勉強したらアラビア文字、書けるようになりますか……？」。一年ですって？とんでもない！次の言葉聞いて、みな、シヨックを受けます。「二年どころか、来週までに覚えてくるんです！」

アラビア文字は28文字。一日に四文字覚えれば一週間で全部、覚えられます。事実、ほとんどの人が翌週、文字を覚えてきます（一ヶ月かかる人も中にはいますが……）。そして、前期が終わる頃には、つい三ヶ月前までアラビア語の「ア」の字も知らなかったのが嘘のように、アラビア語で自己紹介の文章を言ったり書いたり、児童向けの読み物を読んだりすることができるようになっていきます（スラストラと……というわけにはいきませんが）。初級を終えた学生のうち十数名が翌年、



中級も受講し、さらに中級を履修したあとも自主的にアラビア語の授業を継続



店内から漂ってくる水タバコの甘い香りがよみがえります。あるいは「ramadan」。断食月のことですが、たとえば「クリスマス」と聞けば街を彩るイルミネーションが脳裡に広がり、プレゼントを心待ちにするわくわくした気持ちを思い浮かべるように、アラビア語の「ramadan」という言葉は、胸躍るような期待感を掻きたてます。断食月の一ヶ月間、夜になるとアラブの都市は、日本のクリスマスのように街中、イルミネーションが施され、目抜き通りは歩行者天国にオープンカフェ、交差点に設えられた舞台ではライブ演奏が行なわれ深夜まで賑わうのです。生きた言葉としてアラビア語を学ぶと、こういっては、galwya Ⅱ コーヒー、ramadan Ⅱ 断食月という一対一対応を覚えるということではなく、galwya や ramadan が生かされている、その豊かな生の一端にいかにか触れる、ということではないかと思えます。そうすることで、一見、私たちとはかけ離れた、異質の存在に見えるような人々が、いかに多様で豊穣な生を営んでいるか、そして、その根源において人間は同じなのだという「普遍」の感覚が私たち一人ひとりのうちに養われるのではないのでしょうか。

それは、他者を「人間」として理解するということであり、大学の教養科目でアラビア語を学ぶことの意義とは、そうしたことにあるのだと思います。だから、夏休みには毎年、生

履修する熱心な学生さんが毎年必ず何人かいます。そんな人たちにはぜひ、アラブの言語文化を身につけて、インディ・ジョーンズのように中東世界を縦横無尽に活躍してほしいと思えます。一方で、初級を受講する学生さんの多くにとって、アラビア語を学ぶのはあとにも先にもその一年だけですね。そして、ほとんどの者がその後の人生においてアラビア語とは無縁に暮らすのではないのでしょうか。だとすれば、大学で一年間、アラビア語を学ぶことの意義とはいったい何でしょうか？テスト前に必死で覚えた動詞の活用も単語の意味も、数ヶ月すればすっかり忘れてしまっているのを、それでもなお、今、呪文のように唱えて覚えることに果たしてどんな意味があるのでしょうか？言語を学ぶとは、単に文法や単語の意味を覚えることだけを意味するものではありません。言語とは、その言語を話す人々がいてこそ存在するものです。言いかれば、言語とは生かされているから、それを話す人々によって。だから、アラビア語を真に学ぶということは、「生かされた言語」としてのアラビア語を学ぶということであり、アラビア語がいかにか生かされているのか、その生の実相を理解することだと思えます。

たとえば、教科書にも辞書にも、アラビア語の galwya には「ローヒー」という訳語が載っています。galwya の意味を問われて、テストなら「ローヒー」と

さられている言語としてのアラビア語を五感で体験する自由研究を課題として出しています。今はインターネットでアラブ料理のレシピを簡単に検索できるので、アラブ料理に挑戦する人もたくさんいます。お菓子づくりに挑戦した人はたいがい、レシピどおりに作って、あまりの甘さに仰天し、分量を間違えたのでは、と疑いますが、そう、アラブのお菓子は気が狂いそうになるくらい甘いのです。ある年、マフシー・コロンバ（エジプトのロール・キャベツ）に挑戦した学生さん（男性）がいました。レシピどおりにキャベツをいっただいいくつ使ったのでしょうか、手がしびれてきて、気がつけば四時間もただひたすらキャベツの葉っぱを丸めていたそうです。当然、山のようにロール・キャベツが出来上がり、家族を総動員して毎日食べても、全部食べきるまでに一週間かかったそう。手のしびれるような労働と胃袋で、「アラブ人は大家族なんだ」という真実を身をもって知ったという秀逸なレポートを書いてくれました。

そのレポートを読んで思い出しました。もう二〇年以上も前、大学3年になる春休み、初めて行ったエジプトで、日本人の家を訪ねました。そのお宅で、エジプト人の家政婦さんが作ってくれたマフシー・コロンバを振舞われました。そのマフシーも大きなお皿に小高く山のように盛りだくさんでした。あの家政婦さんも、あれだけたくさんマフシーを作るために、きつと何時間もかけてキャベツの葉っぱを巻いてくれたのでしよう。生かされた言語としてのアラビア語を学ぶとは、たとえば「マフシー・コロンバ」を「ロール・キャベツ」という日本語に自動機械的に置き換えるのではなく、その背後



モロッコ サハラ地方のオアシスのカスバ(世界遺産)

書けば正解ですが、でも、アラビア語の galwya を「ローヒー」と訳すということは、生かされた言語としてのアラビア語を理解することほとんど関係がないことのように私には思えます。

かつてオスマン帝国の版図であった東地中海世界やエジプトで galwya と言えば、いわゆるトルコ・コーヒーのことです。細かく挽いた粉を煮出したものをそのままデミタス・カップに注ぎ、粉が底に沈殿するのを待つからおもむろに、コーヒー豆といっしょに挽いたカルダモンがほのかに薫る上澄みだけを静かに啜る、それがアラブの galwya です。「レモン」と聞いたただけで口の中が酸っぱくなるように、galwya という言葉を聞くと、カルダモンの香り、コーヒーの濃厚な苦味、底に溜まった粉をつい吸い込んでしまったときの、口の中あのざらついた感触、カイロのカフェ、



岡 真理 (おか まり)
人間・環境学研究科 准教授
専攻：共生文明学
専門分野：現代アラブ文学
趣味：映画

に存在するジェンダー化され、階級化された労働を想像すること、なのかもしれない。

とはいえ、日本で授業を受けているだけでは、ラマダンを経験することも、マフシー・コロンバを食べることもできません（京都にアラブ・レストランはありませんが、トルコ・レストランならあるので galwya を味わうことはできます）。それでも、1年間の授業を通して「生かされた言語」としてのアラビア語に「生かされて触れること」で、中東イスラーム世界で起こるすべてのイスラーム原理主義者のテロリストのせいにしてしまいう訳知り顔の評論家の解説が、中東世界の真実を伝えるよりはむしろ蔽い隠すものであることを、そして、マスメディアに氾濫するそうした論評が、中東世界に暮らす人間たちの生かされた現実についての知とは無縁なところで吐き出されているものであることを見抜く批判的知性を、学習者一人ひとりが自らの知の一部にしえるのではないかと期待しています。



体力測定を行なう生協の催しに便乗！

骨密度を測ったりもしました。



授業風景(マシントレーニング)



授業風景(ウォーミングアップ・エクササイズ)



授業風景(ステップ台を使って)

授業紹介 4

スポーツ実習

フィットネス

～カラダと対話して physical fitness を維持向上させる～

塩崎 陽子



塩崎 陽子 (しおざき ようこ)
1960年10月22日生
大阪府出身
高等教育研究開発推進機構
非常勤講師
大学院医学研究科内分泌代謝内科
健康運動指導士

(運動生理心理学)
抑うつ状態の改善に効果的な運動プログラムの研究を行なっています。



1キログラムダンベル

で動いてみる。20歳前後の体には必要ではないでしょうか？

筋力トレーニング

10年ほど前は「痩せたい」が希望の一番だったので筋トレするたびに「ムキムキになりませんか？」とこの程度ではありえない質問が女子から飛び出したものです。藤原紀香さんが始めた頃からか、希望は高く「あんな風になりたい」ために筋トレを好む人が増えました。よい傾向です。筋肉は体型や姿勢を保持するだけでなく、代謝量を決める大切な役割があります。しかし、実際には以前と比べ3キロのダンベルをヒョイと持ち上げる女子は減り、迷った挙句全員用で購入した1キロで十分トレーニングが出来る状態です。それほど筋力が低く筋肉量の少ない学生が増えたと感じています。

体育館には年季が入ったウエイトトレーニングマシンがありますので、高重量を安全に使用して筋肉に新たな刺激を送ったり、動きや器具の使い方に慣れてくると、筋トレと有酸素運動を交互にいう短時間で効果的なサーキットトレーニングも取り入れ、全員一体となって physical fitness にとりくんでいます。

もう一つ

授業中に積極的に会話をし、コミュニケーションを取るようすすめています。縁あって1年間、時間を共有するのでからお互いをもっと知ろうとすることが大切です。いつも同じ仲間とだけ会話をするのはなく、他学部、他学年、話した事のない人と接しそこから多くを得て欲しいと思います。将来、目の前にいる人たちがこの国や世界を動かす可能性のある人材なので、きつと人生のプラスになります。

トータルフィットネスは MindBody Fitness の時間でもあります。

学生の皆さんにとっては時間割に「体育」とあった時代から、入学後は授業やサークル活動などを通じ自主的に運動する生活となりました。身体活動量は自分で決める、食事とのバランスとなり自分のからだは自分で作る年代となりました。ところが運動は「週1回のスポーツ実習のみ」という人が増えています。このままでよいのでしょうか？

この先社会人となり、健康診断で「これじゃないかん！ もつと運動をしろ」とメデイカル指導を受けたとしたら、直ぐに実行できるでしょうか？ もし何年間もらしい運動をしていなかったとすれば、いきなり走り出すことも出来ず、用具や相手がなければ何も進まないかも知れません。トータルフィットネスの授業ではこれから自分の体とどう付き合っていくかを考え、「運動が日常にある生活習慣」を獲得して行くことを目的としています。

ストレッチ

「自信を持って体が硬い人」と聞くとほとんどの手が上がります。そして遺伝だとか、体質だとか1回生ならからうじて勘弁できる言い訳をします。むやみに筋肉を伸ばすのではなく京大生らしく「筋肉の正体」を理解することからはじめる、と考えて筋肉を伸ばすため、身体への興味がわき動きが格段に変わります。

有酸素運動

音楽にあわせて行なうエアロビクスダンスは歩くなどのロイインパクトとジョギングやジャンプなどのハイインパクトがあり強度を調整して実施しています。また1人に一台踏み台昇降エクササイズが出来る「ステップ台」がありますので、男子生徒もダンスではない有酸素運動に気軽にチャレンジできます。息を切らして汗が流れ落ちるほどヘトヘトになるまで動いてみる。

研究施設紹介

再生医科学研究所

再生医科学研究所長
坂口 志文

再生医科学研究所は、我が国初の「再生医科学」を冠した研究所として平成10年に設立され、今年、設立10周年を迎えます。再生医科学研究所自体は比較的新しい研究組織なのですが、研究所の系譜をたどりますと、京都大学では3番目に古い附属研究所です。附属病院、薬学部などのある南部キャンパスの南西の端に位置します。研究所の歴史と、研究組織、現在の研究活動を紹介します。

再生医科学研究所は、歴史的に、二つの研究所組織を統合して発足したものです。昭和初期、結核が蔓延したことをきっかけに、昭和16年、結核の予防及び治療を研究の主軸とする京都帝国大学結核研究所が設置されました。戦後、結核が治療予防可能な疾患となり、結核研究

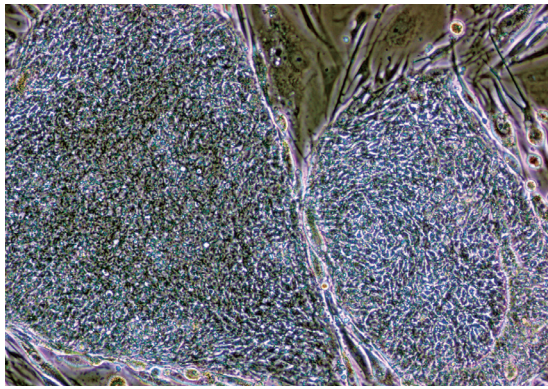
の必要度が低くなるに従い、昭和42年、京都大学結核胸部疾患研究所に、さらに、昭和63年、京都大学胸部疾患研究所に改組され、結核に限らず、肺癌、肺気腫、喘息など広く呼吸器疾患の研究を扱うようになりました。一方、昭和55年に医工連携研究拠点として京都大学医用高分子研究センターが設立され、10年後、生体医療工学研究センターに改組されました。現在の再生医科学研究所は、平成10年、再生医学研究への気運が高まるなか、胸部疾患研究所の基礎系分野及び臨床系分野の一部と、生体医療工学研究センターを、発展的に統合・再編し、改組されて発足したものです。研究所の理念は、「再生医学の学理の追求とその応用」です。この研究所の歴史から窺えるように、現在の再生医科学研究所も、その前身となる結核、胸部疾患研究所、生体医療工学研究センターも、時代の社会的要請に応える形で設立され、組織として変容を重ねつつ活発な研究活動を展開してきました。



再生医科学研究所東館

療を切り開く研究です。ヒトES細胞についても、我が国で初めて樹立に成功し、国内で唯一のヒトES細胞分配機関として広く共同研究を展開しています。

医学基盤研究では、神経・筋・骨・血液・免疫系・心血管系など再生医学の主な標的となる組織の発生・再生機構に関する基礎研究を進めています。例えば、骨髄における造血幹細胞のニッチ（増殖分化の場所）、細胞移動の分子機構の解析、コラーゲンなど組織形成・再生に重要な細胞外基質の産生とその機能の分子基盤、軟骨細胞、筋肉細胞の分化因子、分化に必要な細胞間コミュニケーションの分子機構について研究しています。さらに、移植臓器に対する拒絶反応を抑制すべく、内在性制御性T細胞の機能強化による新しい免疫抑制方法を開発



ヒトES細胞 KhES-1

組織工学研究では、自己組織再生の「場」を形成するため数々の生体組織代替材料、免疫隔離膜、人工細胞外基質、成長因子徐放システムを開発しています。最近、生体吸収性材料を用いて、組織での細胞増殖因子の徐放化に成功し、皮膚・歯周組織・骨組織の再生誘導および血管新生を可能としました。これらの中には既に臨床研究が開始され、良好な治療成績が得られているものもあります。さらに、医工学研究では、細胞表面分子の1分子イメージングに成功し、その生物物理的動態解析により、細胞間コミュニケーションの新しい解析技術を開発しようとしています。



坂口 志文 (さかぐち しもん)
再生医科学研究所長・教授
1951年滋賀県出身
専門：免疫学

以上簡単に紹介しましたように、再生医科学研究所の特色は、基礎医学・基礎生物学の知見を踏まえ、工学・再生医療、幹細胞医学・再生医療の明確なベクトルを持った研究を展開し、基礎研究から再生医療の実現への具体的道筋を示す研究を行っていることです。また、医学・工学出身者による学際的、融合的な研究を進めていることも特徴のひとつです。最近、再生医学・再生医療に社会的関心と期待が高まっています。再生医科学研究所は、わが国における再生医学・再生医療の中核研究拠点として、この学問分野の発展と次世代の研究者の育成に貢献したいと考えています。興味のある方は、再生医科学研究所のホームページ (<http://www.frontier.kyoto-u.ac.jp/>) をご覧ください。



E S細胞研究棟

を産生する神経細胞への効率的分化誘導法を開発し、ヒトのパーキンソン病の治療に直接的に結びつく細胞治療への道を開こうとしています。

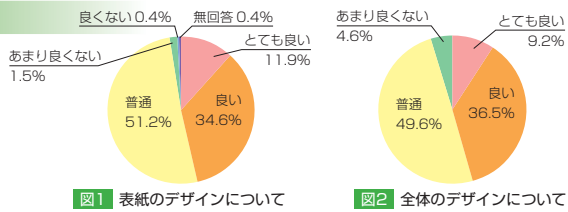
共通教育通信 Vol.10 アンケートの 結果について

共通教育通信編集部では、学生の皆さんの『共通教育通信』に対する意識・要望を調査するため、4月に新入生を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果、260名の学生から回答が寄せられました。熱心にアンケートに取り組んでくださった皆さん、ご協力どうもありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

この頁では、アンケート結果の概要について具体的な回答を例に挙げながら解説します。

1. デザインについて

表紙及び全体のデザインについては、「とても良い」「良い」「普通」と回答した学生が全体の95%を超えました。(右図1、2参照)
その理由としては、「読みやすい」「明るい」「春らしい」「写真が多くて良い」等の回答がありました。
一方で「あまり良くない」「良くない」と答えた学生からは「表紙の写真配置のバランスが良くない」、「一部字が小さくて読みにくいページがある」等の回答がありました。



2. 内容について

記事名	回答者数(人)
①最適解 唯一解なんて…	19
②授業紹介: スポーツのコツとバイオメカニクス	13
③授業紹介: 地盤の科学入門	4
④授業紹介: インド哲学入門	17
⑤授業紹介: ジェンダーと科学	6
⑥授業紹介: 生物学実習Ⅱ	15
⑦授業紹介: フランス語Ⅰ	11
⑧研究施設紹介: 原子炉実験所	8
⑨サークル紹介	37
⑩新入生のみなさんへ	7
⑪ KULASIS 授業サポートページの紹介	19
⑫実験室リニューアルの紹介・改修工事終了	7
⑬コラム・匿名空間の意味	14
計	177

表1 興味をもった記事(複数回答可)

内容についての質問では、興味を持った記事とその理由を挙げてもらいました。その結果、⑨サークル紹介を挙げた学生が最も多く見られました。(左表1参照)やはり、新入生にとってサークル選びは最も大きな関心事のひとつのようで、「様々なサークルの活動を知ることができた」(工学部・男)「サークル選びに迷っているので参考になった」(医・女)等の回答がありました。
また、⑪ KULASIS 授業サポートページの紹介や⑫実験室リニューアルの紹介・改修工事終了を挙げた学生からは「これからの生活で使用する機会が多いと思われるので」(農・男)等の回答がありました。
また、①巻頭言: 最適解・唯一解なんて…、⑬コラム: 匿名空間の意味等、読み物への関心も高く、「とても興味深い話だった」(工・女)「内容に納得し、感動した」(理・女)「やる気が出ました」(工・男)等の率直な感想が寄せられました。
⑩新入生の皆さんへでは、先輩の温かいメッセージに心を打たれた学生も多かったようで「大学生活での心構えが分かった」(経・男)等の回答がありました。
今後掲載してほしい内容では、人気科目・教員の紹介を求める声や、最近話題のiPS細胞関連の記事を求める声も見られました。

【番外編】
vol.10表紙写真の中で一番人気だったのがメジロのヒナの写真でした。
忙しい学生生活、日常のほんのささいな光景に癒されることもありますよね…そんな一瞬を、「共通教育通信」の表紙にしてみませんか？
詳しくは裏表紙をご覧ください！



3. 自由記述欄

自由記述欄には、様々な意見が寄せられました。中でも、②～⑦の授業紹介や⑧研究施設紹介を例に挙げて、「京都大学の分野の幅広さを感じた」(工・男)「1回生のうちから、様々な勉強をしたいと思いました」(農・女)等の回答がありました。全学共通教育ならではの多彩な内容に新鮮な驚きを感じた学生もいたようです。
また、「編集部の方々の熱い思いが伝わってきた」(医・男)「新入生にとって分かりにくい点を解説して下さっているところもあり、非常に便利でした」(学部・性別不明)のように、我々編集部にとって励みになる内容のメッセージもありました。

4. アンケートを終えて

多くの新入生がそう感じたように、京都大学の全学共通教育は非常に幅広く、その内容は多岐に渡っています。我々編集部は、その多様な魅力の一端をこの『共通教育通信』を通して伝えていきたいと考えております。今後は、今回のアンケートで得られた皆さんの生の声を誌面に活かしながら、より良い『共通教育通信』を作っていくしたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



国際フォーラム

『多極的世界観の構築と 外国語教育』報告

人間・環境学研究科教授 大木 充
人間・環境学研究科准教授 西山 教行

ルパン氏を招き、多極的世界の中で英語

平和的交渉による解決を訴えたドヴィ

で2003年のイラク戦

失いがちである。そ

のような意義がある

習・教育の学

諸外国語の学

始めとする

フランス語を

方で、フ

られる一

がさか

の価値

は英語

の日本

現在

聴衆を

あまの

500人

内外より

開催し、学

フォーラムを

と題する国際

「多極的世界観の構築と外国語教育」

国元首相ドミニク・ド

ヴィルパン氏を招き、

6月20日にフランス共和

新聞社の後援を得て、2008

は、財団法人京都大学教育研究振興財団、

京都大学高等教育研究開発推進機構で

在日フランス大使館ならびに朝日

以外

機会を設けた。今なぜ英語の学習だけでは

不十分なのか、なぜ多言語教育や文化の多

様性を擁護し、それを推進する必要がある

のか、これは言語教育に携わる教師や学習

者などがさまざまな立場から考えるべき重

要な課題である。

当日は、ドヴィルパン氏の講演「多極

的世界における多言語主義と文化的多様

性の挑戦」に引き続き、佐伯啓思氏(京

都大学人間・環境学研究科)の報告「混

迷の中の世界—アメリカ一極主義から

多極的世界へ」ならびに三浦信孝氏(中

央大学)の報告「日本の国策としての多

言語主義」が行われ、その後ドヴィル

パン氏を交えて、小倉紀蔵氏(京都大学人間・

環境学研究科)の司会のもとに討議が行

われた。フランス研究の三浦氏に加えて、

アングロ・サクソンの社会思想史に詳し

い佐伯氏、韓国哲学を専門とする小倉氏

と、パネル自体が文化的多様性を示す好

例といえる。

ドヴィルパン氏の講演は、フランス

語の擁護をするものではなく、文化的多

様性のあかしである世界文学の遺産を援

用しながら、多言語主義や文化の多様性

という普遍的メッセージを伝えるもので

あった。グローバル化の進展が進展さ

る中で、その媒体となる言語は単純化さ

れ、少数言語は絶滅の危機に瀕している。

これは「ゆつくりと進行する人類の死」

であり、言語文化の画一化や文化遺産の

危機に立ち向かうために、他者との協働

を進める必要がある、フランスはそのた

めにユネスコやEJ、フランコフォニー

という国際組織との協働を採っており、

その中でドヴィルパン氏は他者性の扉を

開く多言語主義の擁護を訴えた。

佐伯氏は、グローバル化の推進役のアメリカが、2003年のイラク戦争以来、混乱を深め、世界の多極化はいつそう深まっしているものの、言語文化の多様性を承認する「多元主義」には動いていない現実を看破された。
世界へのメッセージを語ったドヴィルパン氏に抗するかのようには、三浦氏はあえてフランスにおける多言語主義と多文化主義の課題を取りあげ、その中から立ち上がる日本のあり方を多言語教育の視座より提示された。
参加者の多くはドヴィルパン氏の発する言葉の力に魅せられ、多言語主義や文化的多様性の問題を共有したと思われる。なお、フォーラム全体の模様は、京都大学学術情報メディアセンターの土佐尚子先生の協力を得て京都大学のOCWサイトよりYouTubeを通じて配信されているので、当日参加できなかったみなさんにも是非ご覧いただきたい。アドレスは次のとおりである。

- 「尾池和夫総長挨拶」
<http://jp.youtube.com/watch?v=cV5z9edWrc&feature=related>
- 「ドヴィルパン氏基調講演」
http://jp.youtube.com/watch?v=Q_QcuPzGYh0&feature=related
- 「佐伯先生発表」
<http://jp.youtube.com/watch?v=cV8hud7mS0&feature=related>
- 「三浦先生発表」
<http://jp.youtube.com/watch?v=h12lSkUvX6o&feature=related>
- 「討論」
<http://jp.youtube.com/watch?v=feViyf6R6M&feature=related>



京都大学交響楽団

京都大学交響楽団は、1916年に創立された日本でも有数の伝統を持つオーケストラです。創立の翌年より、年二回の定期演奏会を戦時中も欠かすことなく開催しています。また、定期演奏会以外にも、毎年夏の演奏旅行や他大学とのジョイントコンサートなど多彩な活動を行っております。最近では、2008年の3月に慶應義塾ワグネルソサイエティオーケストラとの交流演奏会を開催しました。レパートリーとしては以前からベートーヴェンやブラームスを多く取り上げてきましたが、近年はR. シュトラウスや、ショスタコーヴィッチなど大編成の曲や、協奏曲も取り上げています。定期演奏会にはプロの指揮者を客演に迎えています。多彩な客演指揮者の下、このような様々な曲の演奏を通して、音楽性を磨き、よりよいオーケストラを目指し努力を積んでいます。

団員数は約200人ほどで、京大生だけではなく、他大学の学生も所属しています。また、大学一年生から、大学院生までと年齢層も幅広く、とても多くの人と交流を持つことができます。

私たちは大学生ならではの時間と、そして誰にも負けない情熱を持って日々真剣に音楽に取り組んでいます。

ホームページ： <http://www.geocities.jp/kyodaioke/>



「第182回定期演奏会」
2008.1.18
於：京都コンサートホール
■客演指揮：円光寺雅彦
●A. ボロディン／歌劇「イーゴリ公」序曲
●I. ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)
●J. ブラームス／交響曲第4番 短調 op.98

京大持久走同好会



千年の都、京都。鴨川や哲学の道、大文字山道など、京都には数多くの素晴らしい“道”があり、四季折々の景観は世界中の人々の心を魅了してやみません。そんな京都の街を自由気ままに駆け抜けるのが、私たち『京大持久走同好会』です。

本格的に長距離走を極めようという強者から、軽いダイエット目的の人まで、走る目的は会員によってそれぞれです。基本は自由練習ですが、月1回のタイムトライアルの他、各自自治体主催の陸上大会や、大学同士の交流としてのマラソン大会・駅伝大会などにも積極的に参加しており、一年を通じて楽しいイベントが充実しています。なかには「24時間リレーマラソン」なんていう変わり種も！

中学高校と陸上をやってきた人、足は遅いけど走るのは好きな人、気軽に運動を楽しみたい人、最近運動不足でちょっとメタボな人、そして走った後にビールをググッと飲みたい人。ちょっと吉田南4号館裏にあるBOXをのぞいてみて下さい。会員一同、心よりお待ちしております☆

E-mail： jikyuso2004@yahoo.co.jp



サークル紹介



京大飛翔会は創設30年以上の歴史を持つ熱気球サークルです。私達のサークルの活動目的は、日本の各地で熱気球を飛ばし空の景色を楽しむと共に熱気球操作に習熟し最終的にパイロット免許を取得することを目指すというものです。気球のセットを積んだワゴンでの各地への移動は自動車旅行に似た趣があり、気球からの空の眺めはガラス越しでは絶対味わえない立体感があります。そしてパイロットになり気球を操作できるというのが何よりの醍醐味だと思います。

具体的な年間の活動予定としては、週1回の例会に大会参加や合宿といったイベントを加えたものとなっております。主に前期は新入生の訓練・後期は琵琶湖周辺での練習フライトを普段の活動の中心として、夏には北海道で合宿・秋には佐賀の大会・冬は琵琶湖や新潟小千谷での大会へ参加などのイベントも行ないます。

通常の生活では熱気球に乗る機会はなかなかないと思います。

学生生活の大きな柱のひとつに、クラブ・サークル活動があります。京都大学には公認団体だけで、文化系が約100団体、体育系が約90団体もあります。すでにそれぞれの団体で活躍中の人も多いと思いますが、所属団体以外の活動は意外と知らないもの。ここで紹介する情報をきっかけに興味と交流を深め、活動の輪を広げていただければ幸いです。

京大飛翔会



非常に高度な技術が要求される活動ではないので決して敷居が高いサークルではないと思います。参加希望は随時受け付けているので是非気軽に足を運んでみてください。

ホームページ： <http://www.geocities.jp/hishokaihp/>
hishokaihp@yahoo.co.jp
電話：090-6191-8725（代表：経3・南里晃徳）

ESS



昨今、なにかにつけて英語が必要とされてきていますね。そんな時代の荒波に、翻弄されてはいませんか。ESSは荒れ狂う海を渡るあなたをささやかに支援します。

僕たちESS (English Speaking Society) は英語を実際に楽しく使いながら各種の活動をしています。大きく分けてデイリーという昼休みの活動と、アフターという放課後の活動があります。デイリー（月～金の12時15分～12時45分）は英語で雑談や、英語豆知識のミニレクチャー、ゲームなどをし、アフター（月、水、金の18時30分～20時30分）はSpeech, Debate, Discussionの3つのアクティビティをしています。Speech, Debate, Discussionには大会があり、多くの部員が関西、関東、世界大会などを目指して頑張っています。

長期休暇には他大と合同のキャンプがあり、友達は京大だけにとどまりません。英語を使うというだけでなく、それを通して多くのものを身につけていくことができるでしょう。

ESSに入っているだけで英語がペラペラになる保証はありません。しかし、志の高い仲間と、全力を注ぐに値するアクティビティが、あなたの船旅の支えとなるはずですよ。

もちろんみんな初めから英語が得意とは限りません。ESSの仲間になるのにそんなことは関係ありません。どんな方も歓迎ですので、興味湧いたら、是非一度気軽に来てみてください。

ホームページ： <http://www.geocities.jp/kyotoess2006/index.html>



やはりお風呂は好きですね？

銚井 修一

日本人の多くは入浴が好きである。ほぼ毎日のように入っているのではないだろうか。日本の住宅におけるエネルギー消費の内訳を見ると、給湯、照明・AV機器、暖冷房がそれぞれほぼ半を占める。昨今の地球環境問題との絡みでエネルギー消費を削減しようというとき、家電機器や暖冷房に関しては使用を控えたり、効率の良い機器に買い換えたりということ、それらに代わって努力・協力しようという姿勢を見せる。が、ここの入浴に関しては状況は全く異なり、入浴回数を減らそうなどと言うことは極めて稀である。

清潔になる(私)―身体管理の文化誌―シジュルジュ、ヴィガレロ著、同文館出版、平成6年には、ルイ14世のヴェルサイユ宮殿の庭園には水がふんだんに使われていたが、古代ローマを模して設けられた風呂の間はルイ14世の庶子であるトゥールーズ伯爵の住まいに、大理石の浴槽は庭園の泉水盤に姿を変えてしまったこと

が、紹介されている。水は皮膚の毛穴を開け放ち、空気中の毒素が身体に侵入することを可能にし、ペストなどを伝染するとの容疑をかけられ、入浴は避けるべきと考えられたのである。王侯、貴族でも入浴は減多にされたのである。時とともに衛生そして水に対する捉え方は変化したが、多くの人が長く続いた。とはいっても、当時清潔の習慣が欠如していたわけではなく、白い下着の着用など水なしですませる身づくろいの習慣を身に付けていた。清潔という感覚は極めて文化的な概念であり、時代とともに大きく変化したのである。

夏汗をかくと不快になり、入浴やシャワーを浴びるとさっぱりとし清潔に感じる。ただ、例えば子供の頃、外で走り回り泥だらけになって遊んだ後、風呂に入らないと気持ちが悪くて眠れなかったかと聞くと、ほとんどのひとは、そう言われてみるとさっぱりではなかったと回答する。それがどういいう訳か中学校、高校へと進む

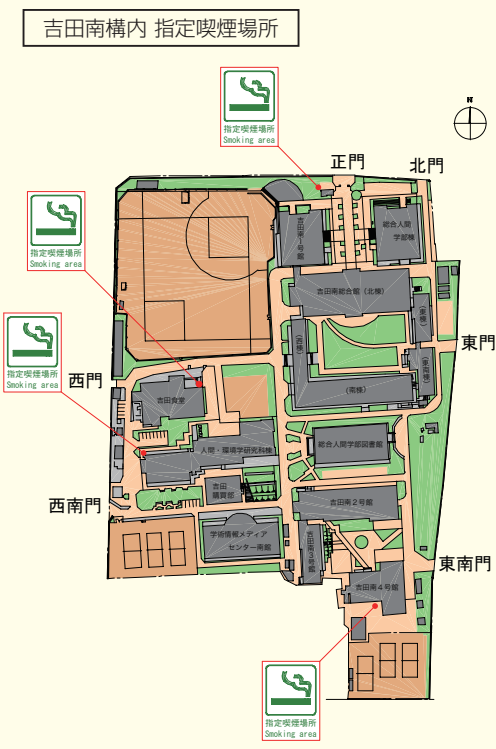


銚井 修一
(ほごいしゅういち)
工学研究科建築学専攻
教授
昭和26年3月北海道生まれ
専門分野：建築環境工学
趣味：畑の草抜き

につれて、汗を流さないと不潔と感ずるようになり変化することも確かなようである。子供から大人への成長過程における生理的な変化がその一因と考えられるが、家庭や学校、社会における教育など心理的、精神的な影響が大きいと思われる(生理的な観点からの汗の不快さの説明は種々考えられているが、汗による摩擦抵抗の増加に由来するところが大きいといわれている)。であるならば、知的レベルの高い京大生は理性的に考え、地球環境のために入浴回数を週一回位は減らすべきと考えるのは、省エネルギーを研究対象とする筆者の我田引水か？

指定場所以外では禁煙です

受動喫煙防止のため、本年4月より吉田キャンパスは指定喫煙場所以外では禁煙となりました。喫煙される方は指定喫煙場所をお願いします。



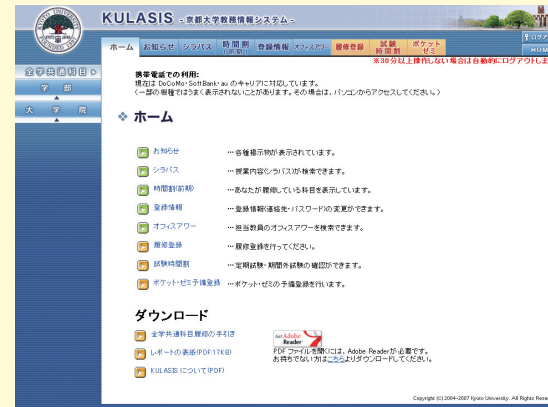
自転車を ご利用の方へのお願い



吉田南構内正門と吉田南総合館北棟との間のプロムナードは歩行者専用空間です。歩行者が安心してくつろげるよう、自転車・バイク進入はご遠慮ください。

KULASIS の全学展開

後期より教育学部、法学部、経済学部、薬学部、農学部、総合人間学部、教育学研究科で KULASIS がスタートします。



昨年11月より、工学部を対象に学部版 KULASIS がスタートしました。これは学生数・教員数の多い工学部をモデルとして、学部科目に対応できる KULASIS の開発・運用を行い、そのノウハウを全学に展開していくための第一段階でした。工学部での KULASIS 運用が安定していることより、第二段階として、今年度後期より7部局(教育学部、法学部、経済学部、薬学部、農学部、総合人間学部、教育学研究科)に展開します。おもな機能は、お知らせ(休講情報、授業変更・レポート情報など)や科目検索、教員からの授業連絡メールなどです。機能的には細々としたのですが、今後は履修登録や採点確認などへも機能を充実していく予定です。さらに来年度4月からは他の学部や大学院の一部でも KULASIS 導入を計画しています。

今後も、より多くの方々に KULASIS をご利用いただけるようシステム開発を行っていきます。

今年度の後期より「学生認証サービス」が始まります。

みなさんは、学内で利用するパソコンや KULASIS のパスワードがそれぞれ違うものであるということに不便に思われていることはないでしょうか？

京都大学では学生のみみなさんに対して、全学的な教育に関する WEB アプリケーションサービスの一元的な入り口を提供する「学生認証サービス」を後期よりスタートします。このサービスは、各サービスの URL 登録や ID とパスワード入力に関わる学生のみみなさんの利便性向上を目指し、メニューの統合により必要な教育サービスの利用を促進させることを目的としています。

「学生認証サービス」へのログインは、学術情報メディアセンター発行の ESC-ID (Deep メールアカウント) を使用します。ログイン後は、KULASIS、Deep Mail、My KULINE が利用できます。ESC-ID を忘れた方、取得していない方は、学術情報メディアセンター(南館)にお問い合わせください。

また、KULASIS 専用パスワードをお持ちの方は、従来どおりの KULASIS ログインページからご利用いただけます。

